

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																		
ES11E001		教育実践研究報告書(Research Report on Educational Practice in Schools)					研究報告																		
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																			
必修	2	2	大学院教育学研究科	後期集中		氏名 山崎清男、今村裕、福本昌之、竹中真希子、大島崇、有定裕雅、古庄一夫、立川研一、牧英治郎、小池一彦、山本遼、河野晋也、藤村晃成																			
						E-mail 内線																			
授業の概要	理論と実践の往還の観点から、2年間の学習・研究を振り返り、報告書にまとめることを目的とする。																								
具体的な到達目標																DP等の対応(別表参照)									
目標1 各自の研究テーマの総括を行うことができる。																1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標2 学校実地研究や教育体験等を理論的に分析することができる。																									
目標3																									
目標4																									
目標5																									
目標6																									
目標7																									
目標8																									
目標9																									
目標10																									
授業の内容																									
1	テーマの設定																								
2	テーマの設定																								
3	内容の検討																								
4	内容の検討																								
5	内容の検討																								
6	内容の検討																								
7	内容の検討																								
8	報告書の作成																								
9	報告書の作成																								
10	報告書の作成																								
11	報告書の作成																								
12	報告書の作成																								
13	最終発表会																								
14	最終発表会																								
15	最終発表会																								
ラーニング	A:知識の定着・確認	調査,発表,文章作成				工夫		その他の																	
	B:意見の表現・交換																								
	C:応用志向																								
	D:知識の活用・創造																								
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修																								
	事後学修																								
教科書	特になし。																								
参考書	特になし。																								
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10													
	最終発表会のプレゼンテーション	20%																							
	報告書の内容	80%																							
注意事項	・教員の指示に従い、授業の準備と復習を行うこと。 ・報告書作成にあたって学生は教員集団のメンバーとしての自覚を持ち、メンタリングの観点から、経験の豊富な者は経験の少ない者の成長をサポートするよう努																								
備考																									
リンク																									
	URL																								